

平成 29 年度第 1 回うきは市総合教育会議 議事録

1. 日時 平成 29 年 10 月 25 日（水）開会 14 時 閉会 16 時
2. 会場 うきは市役所 2 階庁議室
3. 出席者

◆委員（敬称略）

市長	高木 典雄
教育長	麻生 秀喜
教育長職務代理人	西見 修一
教育委員	處 愛美
教育委員	内山 勝之
教育委員	家永 由里子
要綱第 4 条出席者	言語聴覚士 吉岡 麻衣
事務局	企画財政課、学校教育課

4. 議事 (1) ～移住者から見たうきは市の子育てや教育について～
／言語聴覚士 吉岡麻衣さん
(2) 質疑・意見交換
(3) その他 次回の協議事項について

5. 議事録

○開会

○市長あいさつ

○事務局より出席者紹介

●市長

今日は「ぱんのもっか」の吉岡さんに来ていただいております。吉岡さんたちのお力添えでうきは市もようやく移住定住、1 ターンが少しずつ増えてきています。地方創生の取り組みの中で移住定住は大きな課題ですが、呼んでも来ていただいた方が予想通りの素晴らしいまちであったか、あるいは外からいろいろな所を見られて比較してうきはに足りないものをしっかり聞いて、今後進めるうえで重要だと思っていますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。吉岡さんよろしくお願ひします。

●言語聴覚士 吉岡麻衣さん

（ご自分の経歴、移住者からみたうきは市での暮らし、観光、子育て、医療、教育について、特別支援教育に関すること、移住と教育の関係、他自治体の取り組み、障害者就労施設などについてご発言）

●市長

ありがとうございました。吉岡さんから分かりやすく説明いただきました。お忙しい中資料まで作っていただき、ありがとうございます。これから、議事（2）質疑・意見交換に移りたいと思います。吉岡さんのお話を聞いて、皆さんの方から確認したい、深く知りたいこと、あるいは皆さんから吉岡さんに紹介したいというご意見でも結構ですので、自由に出していただければと思います。

●處委員

土曜日午後の保育で「居残りさん」と言われるのは辛いと思う。本当にお母さんは大変。迎えが遅れると自分も気が急ぐし、保育士の先生が待ってらっしゃるというのは本当に辛い。そういう中で必要なのは、個人に負担をかけずにいかにシステム化された子育て支援体制を作っていくかが大切ではないか。

病児保育のことも言われていたが、その時に誰がどう手を差し伸べて、その病気の子どもをケアしていくのか。今はどうしてもお母さんであったり、お母さんがダメなときは家族がいれば家族だっただけに負担がかかってくるが、いかに負担を少なくしながら上手くシステム化した子育て支援体制を作っていくかというのは行政にお願いしたいこと、やっていかななくてはならないこと。これから先、移住促進して子どもがたくさんできるようにしていくためには、社会のシステムとして必要なのではないか。ただ、これはうきは市だけの問題ではなく日本全体の問題でもある。うきは市だけでやっても難しいという気はしている。社会全体で支えていくシステムづくりや保障は、これから先の社会に女性が長く働けることを考えていくに当たっては絶対に必要なことと思います。私が経営者として例えば看護師が、「親が病気だから抜けていいですか」、「兄弟が入院します」、あるいは孫がと言ってきたときに経営者としては抜けられると困る。困るけど、その人のことを思うと「うん」と言わざるを得ない。そこで誰かが我慢して、誰かに負担をかけながら何とかやり繰りしていくのではなく、社会全体で支えるシステムは必要と思う。

●市長

吉岡さんには痛いところを言われていて、移住定住を進める中で、どうしても我々は観光、シティプロモーションを挙げたくなる。その前に教育や子育てを固めるのが重要ではないですかというご指摘だったのですが、改めてずっしりときています。

●處委員

どうしても男性より女性の方が、その辺の負担感を感じているところがあると思う。元気なまちを作っていくには女性が元気に働かないといけなくない。女性が元気に働くためには、子育てがしやすい周りのサポートが必要だと思えます。

子どもの学校のクラスを見て大人しいと思ってしまうのは先生の発問もあると思う。先生をバックアップするシステムでは、たくさん研修会が開かれている。私も時々、学校で飼われている動物を使って子どもたちにふれあい教室をするが、子どもたちに問いかける大人の発問がすごく難しい。子どもがもっと知りたい、これはどうなんだ？というのを引っ張り出す先生の発問、周りの大人の発問というのがとても大事で難しい。寺子屋のところでもっと何か宿題だけじゃなく、子どもたちが知りたいと思える何かがないかと思われるのは、今新しい学習指導要領の中で言われている深い学び。子どもたちがもっと知りたいなと思えるきっかけを作っていくことはこれからとても大事になってくるし、子どもたちが大人しいのは、まだそこまで行き着いていないから出てこない。

●市長

吉岡さんから子ども同士の会話がない、先生方が形は作るけれども肝心の子ども同士の会話がないという話があった。かたや新しい学習指導要領で主体的対話的な深い学び、アクティブラーニングを標榜する中ですごくショッキングな言葉であったのですがどうでしょうか。

●西見委員

絶対これがという常識的なものはないかもしれないが、通常の場合、子ども同士に話をさせる場合は、その前に子ども自身が考えたことが子どもの手元になくちゃいけない。ある課題があって、いわゆる個人思考の時間を確実に取って、ノートやプリントに自分なりのものが書けるという状況、あるいは書かなくても作って、それがそのまま子ども同士に話し合っても時間が続かないと思う。先生が個人思考の時間に、子どもがどの程度先ほど与えた課題をこなしているか、あるいは解けていなくても子ども同士が交流できる状況になっているかという判断をしているかどうか。意外とこれができていない。机間の巡視をしているときに、小学校の先生は割とメモを持って座席を回るが、中学校ではなかなかその姿は見ない。それをやっていないと学級状況は掴めない。掴めていないままに今から10分間話し合ってもらおうと言っても特にできていない子は難しい。単に英会話の練習であれば材料があるのですぐにできる

が、数学などの場合に解けていない子がいる状況でどう扱うか。指導案どおりにいかない状況がそこで生まれ、そこに先生方の力量が問われる。私もうきは市の状況を見ながら、指導案どおりにいかなかったときの対応、子どもの現実をみた対応の仕方を判断できるような指導ができる先生は必要と思う。行政の教職員研修というのは、どうしてもより多くの先生に共通に活用できる指導になりがち。基本は各学校で行われる校内研修の中で、自分たちだけではなく外の力を借りる。専門教官の立場だけでなく言語関係の方、集団作りで話ができるような方たちも入れたらよいと思うが、予算を伴う場合はなかなか難しい。

●吉岡さん

時間とお金とルールを大幅に変えていただく必要がある。

●西見委員

先ほどの説明を聞きながら「こういうことは学校でやっているな」「市全体でやっているな」ということはあるが、それが伝わらない、伝わりにくい状況にあるということは、学校や教育委員会が情報を公開する手立てが十分にできていないということ。中学校区単位の学力向上の話があったが、うきはは中学校区の取り組みを一段上げて市全体で取り組み、そういったことをいろんな市民が調べられるような情報公開が必要ということに気付かされた。各学校のホームページは立ち上げているが現実になかなか更新されない学校もあるし、2カ月に1回更新している学校もあり、校長の姿勢で違う。このあたりの整理を市全体として統一していくと、保護者に限らず移住された方が調べ物をされる際にも良いのかなと改めて思いました。

●市長

32年4月から始まる新学習指導要領の主体的対話的深い学びの「対話的深い学び」に向けて何か動き出していることはありますか。

●麻生委員

先生の先生というのは、学校の先生たちも自分が勉強したいと思うことをやっていただくのが一番良い。希望する先生を対象に夜間に年間8回講義をやっている。その中で新しい学習に向けた具体的な授業の仕方などを若い先生を中心にやっている。市長が言われた対話的深い学びをどのように授業で展開すればよいのか、それを算数でどうするか、そういうのを去年からやり始めて勉強の場としている。もちろん希望する先生が対象だが50名を超える先生が来ている。また、先生方が社会の諸条件に強くないといけないということで、中堅リーダー層を対象に4回ほど開いており、30名ほど参加がある。通常の受けなければいけない研修ではなく、自分で学びたいと思う人が学ぶ場を提供するという形をとっている。今後もやっていきたい。ワンタッチでうきは市の教育が見えるホームページを作らなければいけない。決してご意見にあれこれ言うわけではないが、PRが下手だったんだなというのを今ものすごく感じている。分かりやすいホームページを作りたいと思いますので、また見ていただいてご意見いただきたい。

●市長

本当はやっていることはごまんとある。伝えたい。

●吉岡さん

こんなにやっているんだと今回調べたらいっぱい出てきた。これも言いたいなと思ったことが既に授業で取り上げられていたりしていたので、分かりやすくなるとお母さん方も安心すると思います。

●處委員

実際の授業を見に行っても、先生方も次期学習指導要領をすごく意識して授業されていることを感じるが、肝心の子どもたちがなかなか会話が弾まなかったり、そこに持っていくまでが上手くいっていない。

●吉岡さん

自分たちが教育を受けてきたときがそうだったように、先生の良いように言わなきゃいけないという印象があり、型にはまった方が良いという教育を受けてきている。そういう風に育ってきた同世代の先生方もたくさんいらっしゃると思う。指導要領にあるように形はちゃんとされている。ただ、型にはまりすぎて、先生の個性が活かされずに気持ちが子どもに届いていない。研修もすごく受けられている、きちんとされているというのは感じるが、活きたやり取りになっていない。そのためには研修プラス実践で、現場での指導、時間外にやるのなら実践研究発表のような先生たちの授業映像を見ながら討論をするなどされると良いのかなと部外者ながら思った。

●麻生委員

仰るとおりで、良い授業をするためには良い授業を見ないといけない。先生方は本当に学校で頑張っているのになかなか外に勉強に行く機会がない。各学校から1名ずつ小学校の英語と中学校の英語で宮若市、ICTが進んでいる熊本市に視察を行う。本物や良いものを先生方に見ていただかないと自分の授業の改善にはならない。そういったのは大事にしていかないといけない。

●内山委員

うきは市がこれからも存続していくには、あとを継ぐ子どもたちが本当に大事。教育ということをどういう風に市全体が捉えていくか、そのために何をするかとても大事。吉岡さんが話されていた内容は的を得ていた。教育委員をさせていただいて、学校訪問と子どもの様子を見せていただきながら、先生方の授業も見ている。子どもたち一人ひとり才能は必ずある。それを先生方がどう見つけるか、引き出すか。例えば昆虫が好きな子に意見を言ってもらおう。虫のことは何々君に聞けば分かる、そうすると対話も増えていくのではないかな。私も仕事でお客様一人ひとりの特徴を知りながら、対話をしながらお客様と親しくなってお仕事をいただいている。一人ひとり得意なこと不得意なことは違う、いかに先生方が発見し、その子に対して声をかけるか。一声かけるだけでその子は嬉しくなって前向きになっていく。

●市長

吉岡さんも言っていた「褒める」ということですね。もう一つ寺子屋の中で出てきたのは宿題ばかりしているという話。一番大切なのは学び心に火をつける、勉強の動機づけを与えることが一番重要だと。個人的に振り返ってみると学びの動機づけというのが、火が付いたら黙っていてもぐんぐん自発的に勉強するのではないかという思いがあるが、どうでしょうか。

●西見委員

寺子屋事業には教育事務所の事業でスタートした頃から関わらせていただいた。保護者には最初から2時間(2コマ)あると説明している。1コマ目は学校や塾も含めて自分の持っている宿題を中心にして課題を持ってきなさいと言っている。これが60分。10分間休憩を取って2コマ目は、生涯学習課の担当スタッフが学年ごとにプリントをA4版で4枚から6枚準備している。絶対6枚しないといけないというわけではない。前半は宿題、後半はこちらが準備したプリントをやっていいですよと言っている。ほとんど国語と算数です。自分は4年生を担当していますが全部終わる子は半分くらい。残ったプリントを持って帰りなさいということもないし、やったところで終わり。後半は支援者が個別対応している。悩んでいるのは子ども同士の交流をさせていいのかな。寺子屋は本来そういう趣旨でなかった。今はさせていません。私が5年携わって初めて経験したのは、今特別支援学級から来ている。この子は60分間自分一人で勉強できている。最初は学校から教頭や市の派遣支援員が来ていた。支援員は今でも来ているが、私も心配して問題を別途用意していたりもしていたが、3、4回目から必要なくなった。とにかく全員を褒めた。担当学年18名のうち14名くらいしか来ないが、60分丸々集中する。担当者には間に休憩を入れるよう言っているが私は敢えて取っていない。そのかわり2コマ目は50分で切るようにしている。小学校は1コマ45分だが、この50分を一生懸命やってくれる。ただ褒めるだけでは子どもたちは納得し

ないので具体的に何が良かったかを褒める。そうすると見る見る変わった。なぜだろうと思っていた。寺子屋のやり方については、先ほどお聞きしたお話・お考えも含めて、5年目を節に検討してもよいと思いました。

●家永委員

自分の子育ての時代と噛み合わせながら話を伺わせていただいた。今から25年ほど前、外に出ていて10年後くらいに戻ってきたとき、今のように普及されていない時代でまずは情報を仕入れることから始めた。あらゆる市の会合や勉強会にはくまなく行った。昔住んでいたところではあったが違っていった。自分の中に情報を入れないと住んでいけないというのがあった。今はボタンを押せばさまざまな情報が入手できる時代であるが、自分の足を運んでみることも大事だと感じた。障害児の専門の人をという話は私も賛成。小学校時代、別々にするということも私は大事だと思っている。障害児の子がいるけれど、そうではない子たち、障害があっても頑張ろうとしている子たちがいる。大人になっていく段階で、自分が障害を持っている、人と違っていているということ、でも生きていけるんだということ子どもがきちんと自覚しないと大人になった際にごっちゃになってしまう。今まではこれでよかった、周りの人たちは許してくれたからよかったと思ってしまう。親も子どももきちんと把握することが大事ではないか。差別ではなく、自分がどういう人間であるか区別すること、甘えだけでは暮らしていけないというのがある。だから専門家の補助がほしいということはすごくよく分かる。市にもそれなりの工夫があると思うし、先生方も頑張ってる。私も母親から教育委員になり、学校訪問の際などは目線が変わった。親から見ている目線、委員として見る先生方。色々な思いがあったが、先生方も勉強している、頑張っている、向き不向きはあるが子どもたちに伝えるよう努力をしていると伝えるようになった。コミュニケーション能力については、子どもたちがなかなか隣の子と話せないというのがありますが、家庭の中で親が子どもに話していないというのが一つの大きなポイントではないか。自分は子どもが1人だが、それでも話さない時もあった。きちんと子どもに会話をしているか、おはよう、お休み、いってらっしゃいの挨拶ができるか、その工夫を親がしているか。コミュニケーション能力をつけるのは学校、先生も大事だけど、保護者も頑張らないといけないと思う。

●市長

吉岡さんから就労支援事業についてお話があったが、本日福祉事務所から職員が来ているが、最近A型、B型の支援施設がうきは市にかなり立ち上がっている。一流のブランドとしてサービスを提供するという指摘は初めていただいた。資料にもあったが、起業家として吉岡さんにもお力添えをいただきたい。一通り各委員からお話いただいたが、他にお聞きしたいことがあればお願いします。

●家永委員

図書館の返却場所については、市内にいくつかある。ゆめマートの中や生涯学習センターなど。広報誌にも掲載されたがホームページ等にも掲載があると良いかもしれない。

●麻生委員

ぜひ、またお話を聞かせていただきたい。うきは市は小学校に特別支援学級が全部で15クラスあって、児童が57名、中学校は2学級で生徒が21名。それだけの子どもたちが特別支援学級で頑張っている。就学指導、今は教育支援という言葉を使うが、お父さんお母さんと話して分かるのはやはり厳しい部分があるということ。それが随分よくなってきたのは、先生方が子どもを見られて、子育てネットワーク会議で「こういう子どもさんがいるんだけどどうしましょう」と相談されて、専門家から「こういう指導をされてはどうでしょう」となる。先ほど突然親が言われたという話は、もう少し丁寧に言わなくてはならなかったのかなと思う。こういうシステムができて随分と特別支援に対する理解は進んだが、十分に学校がサービスを提供できているかという部分では頑張らないといけないと思う。社会の中で取り組みに対する皆さんの考えを変えていくには、もっとどんな努力をすればいいのか、改めて考えさせら

れた。随分と理解が進んだが、それでも具体的な場面ではお母さんには理解してもらえたがお父さんはどうか。お父さんお母さんには理解いただいたがおじいちゃんおばあちゃんがというのはある。学校も工夫するし、我々行政も方向づけを出してもなかなか厳しい部分がある。どんなふうにしたら変えていけるのか悩んでいる。

●吉岡さん

私が組織を抜け出して教室を開こうと思ったのは、家族の理解や学校内での具体的な指導などを現場に行き一緒に考えたいというのがあったから。施設に入ると1時間くらいと決まっているので、抜けて外で何か仕事するというのが許されないところがある。そういうところを巻き込んでやりたいと思ったのが自分でやろうと思ったきっかけ。成果を見せるというのが一つ、お子さんが変わるというところを見せるのが一つのキーになるのではないかと。自分たちが仕事としている学習回路の提案、こういうふうにするとこの子は学びやすい、教室に居やすいという提案がブランド化して、あそこの指導を受けるとこの子はこんなに良くなる。じゃあ行きましょう、指導を受けましょうと。お母さん達が学校内で留まらず社会に出たことを見据えて、この子が社会で一人で働いて税金が払えるようになるためにはどうしたらよいか考えて、こういう支援を受けたからうちの子は大丈夫と支援がブランド化することが大事。私たちは教室を開設するにあたってそこを目指している。教室内に留まって非日常の中でやっても仕方がないので、どんどんお母さん、おばあちゃん、学校の先生と話して皆が共通の認識を持って接していかないと成果は出てこない。支援をして認識が良くなってそのお子さんを見て隣のお母さんが良さそうと思ってくれれば良いと思う。

●市長

遊び場の話ですが、吉岡さんは特段新しいものを作らなくても今あるものをしっかりさせて多くの利用者ができるようにと言われた。もう一つ、企画財政課長も問題意識を持っているのがうきは市の中心街に子育てをしているお母さん達が行きやすく子どもを連れて遊べるような広場がない。そこでの会話がなかったというのが色々な形で言われているが、吉岡さんにはそういった声は届いていますか。

●吉岡さん

遊ぶ場所が少ないという声はよく聞くが、「少なくないじゃん、あそこもあるじゃん」と思う。

●市長

実は市立公園は12か所ある。

●吉岡さん

安心して一年を通して遊べるのは百年公園だけかなと思う。整備されている公園は夏は暑すぎて遊べない。町にも小さな公園はあって子どもたちはそこで遊ぶけど、平日は4時や4時半に帰ってきて宿題して、今は時代的に怖いので5時までに帰りましょうと。そんなに平日は子どもたちが遊ぶ時間はない。大きな公園に行くのは親がお休みのときに車で連れて行くというのが現実的で自分はそうしている。大きな公園はあるのもういいけど、もう少し綺麗ならいいのになあと思う。

●市長

吉岡さんはそういう活動もされていて、ご主人のお仕事の関係もあり、先ほどからお話しに出ているようにママ友という色々な声が届いている。情けない話ですが、3万人の市長として私も常に市民の声を聞いて施策に活かしたいが全部聞くタイミングもないのでそれぞれの所管から市民アンケートに答えてもらっているが、どうも私が把握している声と吉岡さんの声にミスマッチがある。例えば吉岡さんからママ友世代の声が私に伝わる仕組みの提言などはできますか。協議会とは違うが、よろしければ、そういった提言もいただけたらと思う。

●吉岡さん

ぜひお願いしたい。理想でこういうのができたらいいなというのはあるが、それでここで終わりにな

ってしまうと、せっかく時間を作って話を聞いていただいたので、何か一つでもできるとすごく嬉しい。

●市長

盛りだくさんの課題でもっと議論したいが、よろしければ質疑・意見交換はこれで終わりとしたい。吉岡さんが言われた言葉の教室の開設準備の話も聞きました。まちが元気になるよう、またお力添えいただきたい。議事（3）その他ということで、次回の協議事項とありますが、事務局からお願いします。

●事務局

事務局としては今年度にもう1回、総合教育会議を開催したい。具体的な議案内容については委員の皆様からご意見取り入れながら検討できればと思う。何かあればこの場でも後日でも構わないのでお知らせいただきたい。

●市長

無事に議事を進めることができました。ありがとうございました。

○閉会